



岐阜陸上競技協会広報

第7号

平成30年8月1日発行

一般財団法人 岐阜陸上競技協会

事務所／〒502-0841 岐阜市学園町3-49 仁科ハイツA102

TEL (058) 294-6494 FAX (058) 294-6491

E-mail gifurik-jim@rhythm.ocn.ne.jp



「2018年度を迎えて～陸上競技への情熱をもって～」

会長 尾藤 義昭

いよいよ2018年度がスタートしました。昨年度は全協会員のご協力のおかげで、全日本ID大会、東海陸上競技選手権大会など県内ののみならず全国、東海地区への重責を果たすことができました。

今シーズンは何と言っても6月に日本で初めて開催される第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会が開催されます。日本の岐阜で開催できることを喜びとしアジア各国の選手役員に気持ち良く競技をしていただけるように日本陸連と岐阜県そして関係者間で連絡を密にしてその準備に余念のない毎日が続いています。岐阜県からも3名の選手が日本代表に選ばれ地元開催に華を添えてくれました。出場の栄誉を讃えるとともに大会でのご健闘をお祈りしたいと思います。

本年は、8月に隣県三重県を中心に全国高校総体が開催されます。その影響で、東海地区の高校生の競技力も飛躍的な向上が予想されます。わが県の高校生の皆さんには他の東海3県のライバルに負けない活躍を大いに期待しています。

2018年度も私たち岐阜陸上競技協会にとって忙しいシーズンになることが予想されます。特に大会運営についてはかつてない国際的な経験をすることができます。大会の成功に向けて努力をすることは大切なことですが結果にとらわれず全協会員協力のもとに岐阜陸上競技協会飛躍の一年になることをお願いして開幕のご挨拶いたします。



「2018年度 岐阜陸上競技協会のスタートに当たって」

副会長 松原 晃正

2018年度の岐阜陸上競技協会が実施する競技会が協会会員の皆様の献身的なご尽力で順調に開催されていることに心から感謝申し上げます。

4月に開催されました「第8回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン大会」は国際陸上競技連盟が定めるラベリング制度で国内のハーフマラソンでは唯一の「ゴールドラベル」の認定を受け、招待選手のレベルやコースなど多くの基準を満たした世界最高の大会となり、岐阜陸上競技協会の会員が一丸となって大会の運営をいたしました。当日は4月では異常な高温となり、熱中症で救急搬送された方もありましたが大事に至らずに良かったと思っています。

第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会が6月7日から10日までの4日間に渡り岐阜メモリアルセンター長良川競技場で開催されました。世界を目指す若手の登竜門として日本での開催は初めてであり、昨年来、日本陸上競技連盟・岐阜県及び岐阜陸上競技協会が組織委員会・実行委員会を重ねて準備協議会等で具体的に協議して開催に至りました。

大会には岐阜県出身の3名の選手が出席し、女子400mHで県岐阜商出身の吉田佳純選手が金メダル、市岐阜商の山下航生選手が円盤投で高校歴代2位の記録で銅メダルを獲得、市岐阜商の稻福颯選手は砲丸投で高校歴代2位の記録を出しましたが惜しくも第5位でしたが、いずれの選手も大活躍しました。

今後は東京オリンピックを目指して頑張っていただきたいと期待いたします。大会は大成功であり、黄倉専務理事及び常務理事の皆様を中心に競技役員として従事されました全ての皆様に、心からご苦労様でしたとねぎらいたいと思います。

今後も競技会が県内各競技場にて開催されますが、競技会開催のために準備等をされます方々の大変なご苦労もありますので、会員一同それぞれの持ち場で協力し合って、岐阜県の競技力向上のために尚一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

福井県で開催されます「国民体育大会」、京都市で開催されます「都道府県対抗女子駅伝」及び広島市で開催の「都道府県対抗男子駅伝」の強化スタッフの皆様には県民の期待を背負っての指導に大変ご苦労様ですが、良い結果が出るように全力であたっていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

専門委員会報告

総務委員会

事業計画

1 理事会・評議員会

月 日	曜 日	会 議	時 間	場 所
5月27日	日	第1回理事会	午前	長良川競技場 会議室
6月24日	日	定例評議員会	午前	長良川スポーツプラザ 研修室
8月11日	土	第2回理事会	午前	未定
12月8日	土	第3回理事会	午後	未定
3月2日	土	第4回理事会	午後	未定

2 委員長会議(必要に応じて開催)

3 栄章関係

月 日	曜 日	会 議	時 間	場 所
11月初旬		栄章候補提出依頼		
12月8日	土	栄章審査会	午前	
2月中旬	日	受章者案内発送		
3月2日	土	栄章表彰 …栄章受章者集合写真撮影	審判講習会の前 …業者に依頼	未定

4 競技会要覧関係

月 日	曜 日	会 議	時 間	場 所
12月15日	土	第1回競技会要覧会議	午前	未定
1月26日	土	第2回競技会要覧会議 …2回から3回校正	午前	未定
3月初旬	土	配布・販売開始		

5 その他の主な会議

月 日	曜 日	会 議	時 間	場 所
4月15日	日	第8回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン走路委員会	10:00~11:00	長良川競技場・会議室
10月13日	土	清流郡市対抗駅伝主任者会議	午前	未定
		監督会議・開会式	午後	未定
3月24日	日	第9回高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン主任者会議	9:30~11:30	長良川競技場・会議室

6 その他 業務

- ・アジアジュニア選手権開催に伴う業務・会議
- ・平成30年度日本陸連地域活性化助成金
使用方法決定と申請・報告
- ・地区陸協との連携
- ・TICの設置と総合案内所の充実
- ・東京マラソン準エリート選手の決定と推薦
- ・競技会日誌・各大会審判業務反省要望のとりまとめ
- ・日本陸連、県、県教育委員会、メモリアルセンター、
県体協、等 連携
- ・補助金申請、報告、会場使用申請、その他
- ・各種会議の招集

【はじめに】

昨年度はいろいろな方に支えられながら、なんとか総務委員長の業務を行うことができました。ありがとうございました。本年度も精一杯務めますので、ご指導ご助言をよろしくお願ひします。

昨年度から国際陸上競技連盟ゴールドラベルの大会となった「高橋尚子ぎふ清流ハーフマラソン」は、本年度第8回を迎える、4月22日に無事に終了することができました。グループ別のスタートも効果的であり、良い評価をいただきました。6月7日~10日には第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会が開催され国際ルールの下、無事に大会を終了することができました。競技役員が競技場から離れた宿舎で行うCID業務を経験したことは、私たちの大きな財産となりました。

【取り組み】

競技役員のポロシャツの色は、アジアジュニア大会より白と紺の2色となりました。2日間連続して行われる大会では、1日目を白、2日目を紺のローテーションで統一できるように、検討していきたいと思います。

ナンバーカードスポンサーについては、今年もヒマラヤ様に提供していただけることになり、岐阜県登録者は小学生から一般まで、指定ロゴ付きナンバーカードを使用することが徹底されています。宣伝効果が高いことが証明でき、契約料金の引き上げにつながるようにしていきたいと思います。

(委員長 内田 匡俊)

審判委員会

【2018年度のスタートにあたって】

1 はじめに

2018年度も例年同様順調にスタートができたと思っていました。今年度は何と言っても6月7日からの第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会を成功させることです。この大会では国際ルールを使っての大会になりますので、少し気をつけなければなりません。しかし、今まで大きな大会を無事何事もなかったかのように成功させてきた岐阜陸協の審判活動には大きな障害はないと考えています。

2 審判委員会の組織と活動

今年度も、正村菊雄(岐阜地区)馬場保(西濃地区)上野悟一郎(中濃地区)山内孝次(東濃地区)桑原宏之(飛騨地区)郷直人(高体連)宇佐見成司(中体連)を中心に各大会の審判編成を行なうだけでなく、審判育成を行なっています。

アジアジュニア陸上競技選手権大会だけでなく、今年度も例年同様、毎週のように県内各地で競技会が行われます。どの大会もできる限り早めに編成を行い、審判依頼を出せるように準備をしていきます。審判依頼が届きましたら、競技会審判をよろしくお願ひします。

3 今年度の主なルール修改と競技運営上の変更及び改良点

2018年度での大きな修改点です。しかし、審判行動においてはこれまでと大きな変更はありません。

(1)リレー競技でのテイクオーバーゾーンが30mとなります。

4×100mRのようにセパレートを使うリレー競技のテイクオーバーゾーンが30mになります。長良川競技場や星ヶ台競技場は新しいゾーンのマークが示されていますが、他の競技場ではまだ20mと10m手前にある青いラインのままで。順次検定の折に直していく予定です。これまで、テイクオーバーゾーンの手前でバトンパスが開始され、失格となったチームありましたが、このルールになったことで、このようなことはなくなります。ただし、走り出すときに、入り口を示すラインを越えて待っていて、スタートをすると失格になります。

(2)フィールド競技の試技時間は30秒になります。

(棒高跳は除く)

これまで、フィールド競技の試技時間(競技者が4人以上の場合と最初の試技の時)は1分でしたが、これからは30

秒となります。また、審判員の準備が整ったことを確認したら主審は、競技者に試技開始をコーンなどを使って示します。

(3)跳躍競技者のナンバーカードはどちらか一枚でよいです。

跳躍競技者のナンバーカードは胸または背に付けていればよいことになりました。国内ではこれまで認められていましたが、今後は国際でもよいことになりました。ただし、これはフィールド競技においてのことですので、トラック競技に参加するときには、背と胸の両方ナンバーカードは必要となります。

4 アジアジュニア陸上競技選手権大会の無事開催

2018年6月7日(木)~10日(日)の4日間長良川競技場にて第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会を無事開催することができました。TD・ITOをはじめ、国際スターターや国際写真判定員などの国際審判員、日本陸連から多くの審判員が来岐しましたが、大変満足をして帰って行かれました。世界や日本陸連の方達と共に審判活動を行う中で、岐阜陸上競技協会の審判力を見せることができたと思っています。ありがとうございました。お疲れ様でした。そして今後ともよろしくお願いします。

(委員長 脇田 篤実)

競技委員会

平成30(2018)年度主要競技会日程

月	日	曜	日本陸連等	中部・東海	岐阜陸協 他	高体連 中学生のみ & 中 学生	岐 阜	西 濃	中 濃	東 濃	飛 躍	曜	日	月	
3	31	土			普及記録会	長良川・補助							土	31	3
	1	日											日	1	
	7	土	金栗記念選抜中・長距離	県民総合(姫路)	春季記録会	星ヶ台 長良川							土	7	
	8	日											日	8	
	14	土											土	14	
	15	日	日本選手権50km競歩	石川 長野	澤田記念・春季陸上	長良川・補助							日	15	
4	21	土	長野マラソン	浜山(島根) 駒沢(東京)									土	21	4
	22	日	TOKYO Combined Events										日	22	
	28	土	兵庫リレーカーニバル	江戸-記念(兵庫)	高橋尚子杯きふ清流ハーフマラソン	岐阜							土	28	
	29	日	出雲陸上										日	29	
	30	月											月	30	
	3	木	織田記念陸上	広域公園(広島)	スポーツカーニバル	長良川							春季講習会 (中山)		
	4	金	高橋尚子杯きふ清流ハーフマラソン												
	5	土	静岡国際陸上	エコパ(静岡)									木	3	
	6	日	水戸招待陸上	K13水戸(茨城) 延岡(宮崎)									金	4	
	11	金	ゴールデンゲームズinのべおか										土	5	
5	12	土	木南道季記念	タクシージャム長野 (大庭)									予備日		
	13	日	仙台国際ハーフ	宮城	中部実業団対抗陸上	長良川							春季講習会 (中山)	日	6
	18	金											金	18	
	19	土											土	19	
	20	日	ゴールデンランブリ	タクシージャム長野 (大庭)									日	20	
	26	土											土	26	
	27	日											日	27	
	2	土											土	2	
	3	日	布勢スプリント	布勢総合(島根)	小学生選手権	浅中							日	3	
	7	木	田島記念陸上	姫路新百年記念(山口)									木	7	
	8	金											金	8	
	9	土											土	9	
6	10	日	アジアジュニア選手権										日	10	6
	15	金	日本学生個人(15~17)	平塚(神奈川)	東海高校総体	伊勢							金	15	
	16	土	日本選手権混成	長野市富(長野)									土	16	
	17	日	U20日本選手権混成(16~17)										日	17	
	22	金	維新百年記念	(山口)									金	22	
	23	土	日本選手権		岐阜県選手権	定通総体	長良川・補助						土	23	
	24	日	サロマ湖100kmウルトラマラソン	北海道									日	24	
	30	土											土	30	
	1	日											日	1	
	7	土											土	7	
	8	日	南部記念陸上	厚別(北海道)									日	8	
	14	土											土	14	
7	15	日											日	15	7
	16	月											月	16	
	21	土	実業団・学生対抗	平塚(神奈川)									土	21	
	22	日											日	22	
	27	金											金	27	
	28	土											土	28	
	29	日											日	29	

調整中	全国中学生クロスカントリー びわ湖毎日マラソン	昭和の森(千葉) 滋賀	5/27(日) 調整中	中津川リレーマラソン ぎふ清流リーマラソン	ジャカルタ(インドネシア) ソットビル(フランス) スペティマーティン(クロアチア) オストラバ(チェコ) ブエノスアイレス(アルゼンチン)
(国際競技会)	5/5~6 世界競歩チーム選手権 調整中 アジアグランプリ 6/7~10 アジアジュニア選手権 7/8 日中韓3カ国交流 7/10~15 U20世界陸上競技選手権	太倉(中国) 調整中 岐阜 厚別(北海道) タンペレ(フィンランド)	8/20~29 9/5 9/8 9/8~9 10/6~18	アジア競技大会 デカネーション IAU100km世界選手権 コンチネンタルカップ ユースオリンピック	

(委員長 川瀬 巧)

強化委員会

強化委員長を拝命し1年が経過しました。昨年度の1年間はこれまでの強化の流れを汲み取り、一歩引いた立場で全体の様子を見ておりましたが、今年度は少しずつ改革を進めていきたいと考えております。

1 派遣標準記録・選考対象試合優先順位設定

昨年度特に重要だと感じた点は、『国体代表選手選考基準の明確化』です。強化委員の中でも選考基準が定まっておらず、各ブロックそれぞれの意見が食い違うという状況がありました。そんな状況を打破すべく、今年度の強化委員会の新たな試みとして、派遣標準記録の設定や選考対象試合の優先順位の設定を行いました。派遣標準記録の設定は、指導者、選手共に記録への拘りを持たせることを狙いとしています。陸上競技は記録を競い合うものなので、目標設定がはっきりとなされていない状況では強化は進んでいません。『国体代表に選ばれる為』ではなく、『国体で戦う為』の具体的な目標設定として、派遣標準記録を設定しました。トレーニング理論や方法論は様々ですが、具体的な目標値を設定することでそれに応じた適切なアプローチがなされてくるものと考えています。また、選考対象試合の優先順位の設定は選ぶ側も選ばれる側にとっても重要であると考えています。本来は一発選考とするのがベストだとは思いますが、現状では優先順位を明確化することがベターだと考えました。

2 ジュニア強化と選抜メンバー強化合宿

日本陸連では東京五輪に向けたジュニアの強化策として、ダイヤモンドアスリート制度を導入しています。全国でも屈指の陸上強豪県である大阪陸協も、OSAKAゆめプロジェクトとして同様の制度を取り入れています。そこまでの制度の導入は難しいとしても、本県でもこれまでの強化合宿とは違うより選抜したメンバーでの合宿を行いたいと考えております。現状の強化合宿や練習会では参加人数も多く競技レベルに開きもある為、トップに合わせた指導を行うのは難しい状況です。また開催場所に変化もないことから、選手も指導者もマンネリ化している状況が見受けられます。そのような状況を変える為には、合宿のやり方そのものを見直す必要があると考えました。今年度の強化策の一つとして、選抜メンバーによる沖縄県での強化合宿も計画しています。他府県と合宿日程を合わせ、合同で行うことも考えています。また、これまでと同様の練習会においても、食品メーカーによる栄養講習会やサプリメントの試飲会を行っていきたいと考えております。

3 選手・指導者の学びと意識改革

また、選手個人の意識を変えることは勿論のこと、指導者も学び続ける必要があります。現役時代に競技力の優れていた選手が優れた指導者になるとは限りません。自身の競技経験だけを基とした指導では、優れた選手を育てることはできません。指導者を育てていく為にも、県外の優秀な指導者から指導法を学ぶ優秀指導者招聘事業も今後積極的に活用していきたいと考えております。今年度は跳躍種目、特に水平種目に焦点をあてた事業を計画しております。

強化を進めていく為には、トレーニング指導だけではなくマネジメントも非常に重要となります。今後継続して行なっていくような、新たな強化システムを構築していく1年間としていきたいと思います。

(委員長 品田 直宏)

普及委員会

6月7日から10日まで第18回アジアジュニア陸上選手権大会が岐阜メモリアルセンター長良川競技場で開催されました。地元岐阜県出身の3人の選手が大活躍をし、大会を大いに盛り上げてくれました。この選手たちも普及委員会が主催する地区の練習会に参加し、力をつけた選手です。岐阜県出身の選手がアジア大会で活躍する姿は、普及委員会のひとつの成果の形だと考えています。今後も、全国、アジア、世界の舞台で活躍する選手を育成することができるよう、地道に活動を続けていきたいと考えています。

今年も、普及委員会では、岐阜、西濃、東濃、飛騨、美濃、可茂の6つの地区に分かれて、1年間に10回程度の練習会を行うことを目標に活動していくこと、小学生、中学生に陸上経験者を増やしていくこと、選手同士の和を深めていくこと、選手の能力を向上させていくことなどをねらっています。また、地域の指導者の親睦にも一役買っています。このような活動は、私が関わっているだけでも24年目になります。今後もぜひ続けていきたいと考えています。

また、先日行われた第3回岐阜県小学生陸上競技選手権大会には、大小合わせて43団体が参加しました。このように多くの団体が参加するようになったのも、各地区で行っている普及委員会の活動の成果であると考えています。さらに、今大会では6つの大会新記録が誕生しました。年々小学生のレベルも向上してきています。1人でも多くの選手が自己ベストを更新できるように、大会運営にも努力していきたいと考えています。

今年度の活動の成果が、全国小学生クロスカントリーリレーリンピック大会や全国小学生陸上競技交流大会、あるいは全日

本中学校陸上競技選手権大会での好成績につながっていくことを期待しています。



(委員長 岸 栄二)



(委員長 馬場 保)

駅伝・道路競技委員会

【第10回ぎふ清流都市対抗駅伝競走大会

(10月21日(日)開催)について】

◆大会概要

編成 21市9郡の代表チーム

第10回大会は30チーム出場の見込

監督1名、コーチ2名、選手17名

(小学男女各2名、中学男2名・女3名、

高校一般男女3名、40歳以上2名)

◆大会日程

開会式 10月20日(土)14:00

岐阜都ホテル・ボールルーム

レセプション

10月20日(土)14:20～16:00

岐阜都ホテル・ボールルーム

閉会式 10月21日(日)13:00

県庁大會議室

※監督会議10月20日(土)13:00～

岐阜都ホテル・青葉の間

◆大会に関わる会議日程

8月1日(水)駅伝実務担当者会議

10月3日(水)交通規制会議

10月20日(土)主任者会議

※その他、毎月2～3回程度、県、岐阜市、羽島市、の担当者との打合せ会議開催予定

◆委員会活動

年3回(7月・10月・2月)会議開催

◎議題 1ぎふ清流駅伝の反省

2各地域で開催の駅伝・ロードレース等の

運営面の問題点等

記録・情報処理委員会

今回は、アジアジュニア成功に向けて準備をしてきたことについて大きな点を3つ紹介したいと思います。

1 情報機器を扱える人材の育成

まず1つ目は情報機器を扱える人材の育成です。国際競技会や日本の主要競技会でもイベントプレゼンテーション(魅せる競技会)が当たり前になってきています。イベントプレゼンテーションは、ただ音や映像を使って競技会を盛り上げるだけではありません。審判員と選手だけでなく、観客や競技会に関わる全ての人との一体感を出すことが重要です。そのため記録や情報処理は重要な役割を担っています。瞬時に結果を大型映像に表示するはもちろんのこと、英語対応のデータを作成することや、日々のスタートリストの作成、ファイナルコンファーメーションやTDとの連携など、国際大会では、いつも以上に多くの業務があります。お金をかければ何でもできますが、なるべくお金をかけずに工夫して円滑に競技会を運営するために「自ら考え、行動する人材」が育つてくれました。

2 情報機器の更新に伴う全国大会のような競技会運営

2つ目に長良川競技場の情報機器が更新されたことです。今まで人材の育成に努めてきた結果、情報機器の数よりもそれを扱える人材の方が多くなってきました。3月に長良川競技場に備え付けの情報機器が更新され、台数が増えたことにより、全国大会のような競技会運営に県内の競技会を近づけて実施する事が可能になりました。例えば、全てのフィールド競技やサブトラックで開催している種目の記録を現地で入力できるようになったり、EPチームが使用するためのプリンタやiPad等も準備ができます。このように今まででは情報機器の台数が足りずできなかったことが以前よりも対応可能になっています。

3 国際競技会に関する知識の習得

最後に3つ目は国際競技会に関する知識の習得です。日本陸連やマット社からの指導を受け、国際陸連主催競技会のような英語の表記の帳票作成をはじめ、競技会本番での結果表示では、選手ごとのSB(シーズンベスト)、PB(パーソナルベスト)を瞬

時に表示すること、大会新記録等が出た場合は一番良い記録を出した選手にだけコメント表示をすることなど、いつも以上に速報性と同時に正確性を求められることが多いと感じました。また、記録の確定については審判長や記録主任以外にTDのサインも必要です。国別のメダルテーブルなども国際大会ならではでした。他にも通常の競技会運営とは異なる部分や関わる人の数が多く、情報伝達のスピードと正確性が求められることがよくわかりました。

4 最後に

アジアジュニア大変お疲れさまでした。貴重な時間を割いて活躍してくれた皆さんのおかげでこのような大きな大会を成功させることができました。本当にありがとうございました。

せっかくこれだけの競技会を運営できるようになったので、良い部分は今後の競技会でも活かしていくことができればと思っています。それと同時に今回の反省から改善に向けてアイデアを出し合い、みんなで楽しみながら一緒に作り上げていく競技会運営を目指していくければ良いなと感じています。やってみたいことはぜひ口に出してください。実現に向けてみんなで楽しみながら競技会を盛り上げていきましょう!

(委員長 山下 和行)

施設・用器具委員会

1 アジアジュニア陸上競技選手権への取り組み

第18回アジアジュニア陸上競技選手権大会を大成功で終了出来ました。

昨年度から日本陸連の指導を仰ぎ、初めての国際大会の競技運営に対する会議を何度も積み重ねてきました。我々、岐阜陸協の競技役員は幾つかの全国大会を運営してきた経験と頑張りで『やれば出来るんだ』を実践出来ました。

2 電子機器等の大幅導入

前号でも紹介しましたが、岐阜陸協執行部の方々の努力で『ぎふ清流国体』でもそろえられなかった電子機器、投擲器具、跳躍マットなど揃えていただきこれ以上ない長良川競技場で大会を運営出来ました。

3 投擲器具一覧表作成作業

今回の国際大会で長良川競技場備え付けの投擲器具について、日本陸連の検定員・施設用器具委員長の高木良郎さんから非常に細かい指示を受け、岐阜陸協の石原好之常務・松田哲明・堀一智検定員と共に夜遅くまでかけて一覧表作成作業を行いました。今までにない完璧な一覧表と幅広く揃えていただいた投擲器具のお陰で4日間の投擲競技で持ち込み器具検定が1つもありませんでした。高木委員長の話では全国大会とか国際大会で持ち込み器具検定がない競技会は余り記憶にないとのことでした。

今後、これだけ揃えていただいた器具・用具類を大切に使用していかなければなりません。担当する競技役員全員が心がけていこうではありませんか。

(委員長 杉山 美生)

女性委員会

【平成30年度の活動方針・計画】

本年度の目標…託児室の充実と女性審判員の増員を図る

1 託児室の開設

岐阜県登録者(審判・競技者、男女共)の小学生未満の幼児を対象。

2 平成30年度 託児室開設予定競技会

(5競技会8回、長良川競技場のみ)

- | | |
|------------------|-------------|
| (1) 4月29日(日) | ぎふスポーツカーニバル |
| (2) 5月12,13日(土日) | 中部実業団対抗陸上 |
| (3) 6月23日(土) | 岐阜県選手権 |
| 6月30日7月1日(土日) | " |
| (4) 8月12日(日) | 強化記録会 |
| 11月3日(土) | 秋季記録会 |

3 女性委員会開催

1女性審判員の増員、養成の広報活動

2女性競技者の支援

女性委員会の平成30年度の活動としましては、上記2点を中心に活動を進めていきたいと考えています。平成25年度に託児室を開設し今年度で6年目になります。毎年託児依頼が増えています。本年度もさらに託児室開設の充実を図りたいと考えています。子どもたちはここで友達となり、毎回仲良く遊んでいます。子どもたちは外遊びが大好きです。そこで今年度は保育士さんや学生ボランティアの協力も得て子どもたちと陸上競技につながるような遊びも入れていこうと考えています。

まだ利用はありませんが、競技者の方からの託児依頼にも答えたいと考えています。

その他の事業として女性審判員の増員も図りたいと考えています。少しでも審判に興味がある方参加してください。また周囲の方をお説いてください。



(委員長 浅野 美津子)

医事委員会

1 救護体制との関わりについて

委員会が立ち上がり4年目を迎えました。事業計画に沿って着実に活動していきたいと思っています。

4月には、本協会主催大会に看護師派遣を岐阜スポーツドクター協議会で行いました。ぎふ清流ハーフマラソンにおいては、救護本部と連携し、救護活動の一翼を担いました。救護体制との関わりについては、今後も検討していきたいと考えています。

2 「トレーナールーム」開設及び「スタジアム救護」活動

主要活動である「トレーナールーム」開設及び「スタジアム救護」活動は、7月の岐阜県陸上競技選手権大会を予定しています。さらに、福井国体への関わりでは、合宿時のトレーナー派遣、本大会でのトレーナー一同を行い選手が万全の体制で競技できるよう支援していく予定です。また、「第26回日本陸上競技連盟トレーナーセミナー」への参加などを計画しています。

3 アジアジュニア陸上競技選手権大会での医療・救護活動

今年度の最大イベントであるアジアジュニア陸上競技選手権大会では、日本陸上競技連盟医事委員会と協力し、医療・救護活動をしました。主に、メインでのスタジアム救護を行いました。日本陸連との共同活動を通じて得たものは多く、今回の貴重な体験を今後の県内競技会にも生かしていきたいと思っています。

4 最後に

今年度も「医事委員会」の活動をご理解いただきとともに、あらゆるご支援とご協力をよろしくお願いします。

(委員長 河島 正弘)

広報委員会

【平成30年度 広報委員会活動計画】

1 事業

(1) 広報誌6号発刊(4月中旬)※県陸協HPアップ予定

- ・平成29年度後期号(活動報告)
- ・アジアジュニア陸上競技選手権大会案内
- ・高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン大会展望その他
- ・東濃地区陸協記念事業

(2) 広報誌7号発刊(7月初・中旬)※県陸協HPアップ予定

- ・平成30年度前期号(事業計画・展望)
- ・アジアジュニア陸上競技選手権大会報告(概要)
- ・高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン大会結果その他

(3) アジアジュニア陸上競技選手権大会特集増刊号

(8月下旬)※県陸協HPアップ予定

- ・挨拶と大会報告
- ・競技成績

(4) 広報8号発刊(平成31年4月下旬発刊予定)

※県陸協HPアップ予定

- ・平成30年度後期号(活動報告)その他
- ・県陸協HPアップ予定

2 活動予定

平成30年度

2月初旬	6号・7号・増刊号発刊編集会議 ※29・30年事業計画案検討 6号原稿依頼発送 広報委員会・6号1次・2次校正
3月初旬	校正原稿入稿 広報委員会・発送業務・7号発刊準備会
4月初旬	大会にて6号配布 広報委員会・6号発刊反省会・ 7号原稿依頼発送
4月中旬	広報委員会・7号原稿締切、 広報委員会・7号1次2次校正
4月中・下旬	広報委員会・アジアジュニア陸上競技 選手権増刊号準備会 アジアジュニア陸上競技選手権増刊号 原稿依頼 広報委員会・発送準備・7号入稿
5月中・下旬	県選手権にて7号配布 アジアジュニア陸上競技選手権増刊号 原稿締切
6月中旬	広報委員会・アジアジュニア陸上競技 選手権増刊号1次校正 広報委員会・アジアジュニア陸上競技 選手権増刊号2次校正
7月初旬	広報委員会・アジアジュニア陸上競技 選手権増刊号印刷 アジアジュニア陸上競技選手権増刊号 発送配布
7月初・中旬	広報委員会・アジアジュニア陸上競技 選手権増刊号1次校正 広報委員会・アジアジュニア陸上競技 選手権増刊号2次校正
7月下旬	広報委員会・アジアジュニア陸上競技 選手権増刊号印刷
8月初・中旬	アジアジュニア陸上競技選手権増刊号 発送配布

平成31年度

2月初旬	広報委員会・8号・9号発刊編集会議 8号原稿依頼発送
3月初・中旬	広報委員会・8号1次・2次校正
3月下旬	広報委員会・発送業務予定
4月初・中旬	競技会にて8号配布予定

3 発刊内容

6号・7号発刊部数 550部

(1) 県内関係団体郵送・一般会員手渡し実施

県陸協役員・地区体協・県体協・都市体協・スポーツ課・
県高体連・警察関係・一般会員

(2) 県外関係団体へ郵送の実施

日本陸連・高体連・都道府県陸協・新聞社・放送局・
関係企業その他

(3) 県内外バナー広告企業に郵送配布実施

4 活動課題

(1) 第6号・7号広報誌発刊へ向けて年度総括

- ・東濃陸協記念事業関係
- ・アジアジュニア陸上競技選手権大会情報の取り扱い。

(2) アジアジュニア陸上競技選手権大会増刊号発刊

- ・岐阜陸協ホームページでの広報誌閲覧の関係部署との連携と協力の検討・実施。

(3) 広報誌送付先の精選と発行部数の検討。

(4) 読みやすい紙面作り

(委員長 木下 克己)

各地区陸協報告

岐阜地区陸上競技協会

平成30年度が始まり、岐阜地区の競技力の向上と地域の活性化を目指し、取り組んでいます。昨年度から開催の、岐阜地区陸上競技選手権の実施種目を増加させました。より多くの参加者がパフォーマンスを發揮してくれることを期待します。

平成30年度 事業計画

日時	事業名	場所
5月5・6日(土・日)	岐阜県高等学校総合体育大会 岐阜地区予選会	長良川競技場
6月16日(土)	岐阜地区中学校総合体育大会	長良川競技場
9月 9日(日)	第2回岐阜地区 陸上競技選手権大会	長良川競技場
10月20日(土)	岐阜地区 高等学校総合体育大会	長良川競技場
10月20日(土)	岐阜地区中学校駅伝競走大会	山県市四国山香りの森公園
12月 8日(土)	岐阜地区高等学校 駅伝競走大会	長良川河川道路
3月16日(土)	理事会	未定

東京オリンピック・パラリンピックの開催をまじかに控え、世界で活躍する選手が増えています。陸上競技では男子の短距離がリレーをもとに活気づいています。また、日本で初めて岐阜で開催された「アジアジュニア陸上競技選手権大会」に岐阜地区から3人の選手(県岐阜商出身の吉田佳純さん・市岐阜商の稻福颯君・山下航生君)が参加し盛り上がりました。こうした大会に岐阜地区から多くの選手が代表となり参加できてくれたと思います。そのために、小学生の埋もれている逸材の発掘、中学高校の強化、各都市の活性化をあげ関係団体と協調しながら取り組みたいと思います。

(理事長 正村 菊雄)

東濃地区陸上競技協会

平成30年度 東濃地区陸上競技協会

1 初めに

昭和32年に設立された『東濃陸上競技協会』は、本年で61年目を迎えます。このような伝統ある協会で、弱冠40歳の私が会長という職務を担わせて頂けていることは、陸上競技に携わる関係各位のご理解とご支援によるものと、厚く御礼申し上げます。

また、私自身の陸上競技経験がないにも関わらず、陸上関係者とのご縁により東濃地区陸上競技協会、多治見市陸上競技協会の会長職を仰せつかっておりますことにも、重ねて御礼を申し上げる次第です。

2 「陸上競技大会」、「中山道東濃駅伝競走大会」、

「東濃ロードレース」への取り組み

当協会は「陸上競技大会」、「中山道東濃駅伝競走大

会」、「東濃ロードレース」の3つを中核事業として取り組んでおります。また近年は、多治見市運動公園星ヶ台競技場において、全国のトップ選手が集結して開催される「中部実業団陸上競技選手権大会」の誘致・運営にも積極的に関わり、陸上競技の普及・振興に努めているところです。

しかし、大きな課題があることも事実です。特に中山道東濃駅伝競走大会においては、中日新聞社、並びに同販売店様による中日会東濃支部との連携という大きな支えはあるものの、交通規制を伴いながら公道を走ることの難しさ、5市をまたがるコース選択、3つの警察署の許可など、大会運営が年々厳しくなって来ていることです。またどこの団体においても同じかもしれません、大会役員並びに審判の不足や高齢化による今後の協会運営に対しても危機感を感じております。

3 交流・人員確保

今後は、持続可能な協会運営に向けて、引き続き諸先輩の知識・経験を若手や次の世代に伝え、引き継いでいけるよう一層の交流・人員確保に努めて参ります。

最後になりますが、これまで多くの諸先輩方がしっかりと当協会の礎を築かれたからこそ、現在の当協会があるわけでございます。駅伝に例えるならば、諸先輩方が繋いで来られた伝統あるタスキを掛けて私が走っている状況です。託された区間を懸命に走り抜き、このタスキを次の選手(世代)にしっかりと渡すことが私の責務であると痛感しております。

多くの役員や関係者の皆様方に引き続き支えて頂きながら、時代の変化にも柔軟に対応しつつ、当地区における陸上競技の更なる普及・振興、並びに当協会の発展を目指して、会長としての職務を全うして参る所存です。

(会長 高木 貴行)



西濃地区陸上競技協会

平成30年度 西濃地区陸上競技協会

1はじめに

平成30年度が始まりました。

西濃地区2市7町の地域の活性化、競技力の向上を図るために関係者及び役員一同、決意を新たにします。

2 平成30年度新役員

会長	田口 利正
副会長	山本 敏彦、松原 正則
理事長	牧野 安孝
常務理事	石原 好之、石田 仁、臼井 隆、土屋 雅敏、石田 武
幹事	酒井 清司、野川 光義
事務局	馬場 保

3 事業計画

事業	月日	場所
高校総体西濃地区予選	5月3日～4日	浅中グランド
第64回西濃陸上競技選手権	6月2日	浅中グランド
西濃地区中学校陸上競技選手権	6月16日	浅中グランド
西濃地区小学生記録会	9月24日	浅中グランド
2018いびがわマラソン	11月11日	揖斐川町公認コース
岐阜経済大学陸上競技記録会	平成31年3月9日	経大グランド

4 むすび

西濃陸上競技協会は青少年の健全育成、体力向上と陸上競技の普及・強化を目的に戦後間もなく発足しました。それから70年以上も経過し社会情勢や人の価値観の移り変わりが著しくなっています。こうした中、陸上競技の本来の目的である“心・技・体”的成長が重要ですが、今日の若い選手には特に“心”的部分を指導することが急務であると痛感します。

(理事長 牧野 安孝)

中濃地区陸上競技協会

平成30年度 中濃地区陸上競技協会

1 競技場改修工事が完了

中池公園陸上競技場の管理棟改修工事が完了し、本格的な競技会を開催できるようになりました。関シティマラソン大会を管理棟のこけら落として開催しました。800名収容のスタンドを設置したことにより観客の皆さんからの「競技会が見やすくなり応援のやり甲斐ができた。」とお褒めの言葉を掛けて頂けるようになりました。

今後はより一層多くの大会を開催していきたいと思っています。また選手の普及、強化のための環境づくりに努めています。

2 競技会、記録会開催予定

本年は下記のように競技会、記録会の開催を予定しています。中濃地区の選手をはじめ多くの方々の参加をお願いします。

また、各市町においてロードレース大会や駅伝大会を開催しますので、是非多くのランナーにご参加くださいようお願いします。

3 平成30年度活動計画

活動内容	月日
高体連IH地区予選会	5月3日、4日
中体連美濃地区予選会	6月2日
中体連可茂地区予選会	6月16日
中濃大会兼陸上記録会	6月24日
中濃地区審判講習会	6月24日
高体連地区総体	7月14日
美濃加茂陸上競技大会	8月5日
中濃地区ジュニア記録会	10月7日
中濃駅伝競走大会	2月3日
閔シティマラソン大会	3月17日

※なお、平成30年度ナイター記録会は照明設備改修工事の為中止とさせて頂きます。

(理事長 上野 悟一郎)

飛騨地区陸上競技協会

平成30年度 飛騨地区陸上競技協会

【年間活動計画】

※各競技会に向けてのプログラム編成会議(約2週間前)

月	期日	曜日	大 会・競技会名	会 場
5	3～4	木・金	第41回:飛騨春季記録会 兼県高校総体飛騨地区予選会	中山陸上競技場
	2・3	土・日	各地区的陸上競技大会(高山市、飛騨市、下呂市)	各地区的会場
	16	土	第47回:飛騨地区中学総体陸上競技大会	中山陸上競技場
6	8	日	第66回:飛騨地区体育大会陸上競技大会	中山陸上競技場
	8	日	第24回:飛騨地区スポーツ少年団交流会	中山陸上競技場
	14	土	第68回:飛騨地区高校総体陸上競技大会	中山陸上競技場
7	1	土	第3回:飛騨地区陸上スポーツ少年団記録会	中山陸上競技場
	1・2	土・日	第50回:飛騨選手権大会	中山陸上競技場
	23	日・祝	第11回:岐阜県民スポーツ大会(陸上競技大会)	中山陸上競技場
8	8	月・祝	第40回:飛騨地区秋季陸上競技記録会	中山陸上競技場
	14	日	第67回男子・第35回女子:飛騨地区高校駅伝競走大会	古川町森林公園
	20	土	第26回:飛騨地区中学駅伝競走大会	中山陸上競技場
9	18	日	第55回:飛騨駅伝競走大会	古川町森林公園
			※各地区における駅伝競走大会、マラソン大会等	各地区的会場

この他に、年間を通して「練習会」「技術講習会」「長距離強化合宿」等が、各地区陸協・中体連・高体連が中心となって企画・実施されています。

『飛騨地区陸上競技協会:変革提言』の実現に向けて

昨年度、平塚光明会長の主導により、見出しの件について会員の意見の集約がなされ、今年度当初その結果のまとめが示されました。その中から、〈飛騨地区選手の競技力のさらなる向上を図るための提言〉について記してみたいと思います。

- (1) スポーツ少年団の選手たちに陸上を好きになってもらう。この“底辺拡大”が出発点である。少年団の大会では、6位までの選手を表彰台に登らせて表彰する。
- (2) 中学校では、今現在も学校の枠を越えて横のつながりを大切にして連携を図り、競技力の向上につなげている。今後もこれを継続する。
- (3) 小・中の競技力は高いが、高校進学で他地区へ流出することが多い。このことを否定するものではないが、飛騨地区の高校へ進学して競技を継続することが、小・中への刺激になると考える。
○中・高のつながりを強化し、「地元高校へ進学し、競技を続ける」というイメージをもたせる。(合同合宿・練習の交流等)
- 飛騨地区の高校生がさらに強くなると、中学生もそれを目指として飛騨地区に根付く。
- 小・中・高の枠を越えた指導の強化が必要である。
- (4) 選抜された選手の強化練習(一週間程度)。その意味づけをしっかり行えば、励みにする選手も出てくる。
- (5) 中・高の『御嶽・濁河高地トレーニングセンター』での練習機会の確保とその補助。
- (6) 大学や実業団で活躍する飛騨地区出身選手とのパイプを太くし、「ふるさと選手応援制度」システムを作る。その選手の活躍ぶりを飛騨地区の大会で絶えず紹介する。また、飛騨地区の大会や練習会に帰郷を促し、地元で講演や練習会を行う。
- (7) 有名選手を呼んでの講演や練習会の実施。
- (8) 指導者がもっと学ぶ必要がある。指導者同士アドバイスし合えるような仲間づくり、ネットワークづくりが必要である。

これらの中には、提言に従ってすでに実施されているものもあり、今後もその実現必要(可能)度を「短期・中期・長期」の見通しを立てながら、実現に向けて努力していきたいと考えています。

(理事長 新屋 幹男)



関係団体(協力団体)

岐阜県中体連陸上競技専門委員会

【平成30年度の中体連の取り組みについて】

1はじめに

中体連では、「全日本中学校陸上競技選手権大会」と「ジュニアオリンピック」の2つの全国大会で活躍することを大きな目標と考えて、強化選手を毎年、選考して、定期的に強化練習会や合宿を通じて、「技」「体」「心」「生活」「仲間」を大切にして取り組んでいます。

昨年度の熊本全中では、種目21種目30名(全国大会参加標準記録突破)の出場となりました。結果については、神岡中の岩垣勇司くんが男子共通400mで見事、日本一に輝きました。また、美濃加茂東の三輪哉太くんが男子共通走幅跳で4位入賞と、「日本一1つ、全国大会8位以内の入賞2つ」の成果を残すことができました。目標にしていた日本一1つは達成できましたが、全国大会8位以内の入賞5つまでは達成できませんでした。

また、ジュニアオリンピックでは、37名の選手が出場することができました。結果は、中山中の瀬木彩花さんがC800mで5位入賞、中山中の岩島共汰くんがA3000mで6位入賞、金山中の細江悠仁くんがジャベリックスローで7位入賞し、入賞3つを達成できました。

岐阜県中学部では、昨年度の全中、ジュニアオリンピックを経て、種目間トランスターの導入を図るため、強化練習会で400mの記録測定を実施し、種目適正を見てきました。今年度も100mから400mを選択する選手が出ており、今後の伸びに期待できる状態にあります。昨年度から本格的に取り組みを始めている、原田隆史さん(原田教育研究所)の理論、考え方を継続して取り組んでいます。

2 中体連の取り組みについて

(1) 原田メソッドの導入と成果

過去に中学陸上界で一世を風靡し、現在は人材育成のプロフェッショナルとして企業や公務員、教育現場、プロのスポーツ選手などの指導にあたる原田隆史氏を招いて、「岐阜県の人材確保、教育そして強化、小・中・高・大の岐阜システムの確立～岐阜で育てた選手を世界へ～」というテーマの下、新たな取り組みをスタートさせました。原田メソッドと呼ばれる「目的・目標設定用紙」「ルーティーンチェック表」「日誌」「オープンウインドウ64」をもとに、目標の明確化、メンタルトレーニングの導入、組織を再建させる原則、個人のやる気を育てるなど、原点に立ち返り、指導に当たることを重点として取り組み始めています。月刊陸上競技7月号でも紹介されていますが、中山中学校の駅伝部で原田メソッドを導入して取り組んだ結果、全中駅伝男子6位入賞を果たしました。これも一つの成果となりました。

(2) 強化選手の育成・強化

次年度には、最低でも「全国参加標準記録を突破できる者」、もしくは「それ以上に結果を残せる者」を選考の規準として、「岐阜県強化選手」として選考しております。選ばれた選手は、強化ジャージを着ることができただけでなく、「強化練習会」「強化合宿」での練習を通じて、県強化スタッフによる各種目での技術指導を中心として、個のレベルアップを図っております。コントロールテストの結果も、今まで以上に高い数値を出しておおり、今後の記録向上が期待できる結果となっています。

また、技術面だけの指導ではなく、「全国大会」という舞台でいかに力を發揮できるかを考えたとき、「心」の面の指導を欠かすことはできません。全国大会という場においても、通常の大会と変わらず、戦えるようにメンタル面での指導も入れながら力を入れております。練習会の始めには、必ず「心」の面の指導を入れて、メンタルを鍛えています。そこで大切にしていることは、目標設定用紙に「書く」ということです。書くことで具体的な姿が見えてきて、練習にも意欲的に取り組めるようになると考えております。

3 今後の指導の重点

県強化スタッフを中心に、強化練習会や強化合宿を定期的に実施しながら取り組みを行っております。強化合宿や強化練習会の際には、原田メソッドを取り入れ再度、目標を明確にして、その後の練習に活かせるように指導をしています。今年度も昨年度同様に、スパースター不在の年となります。それでも人材育成を図りながら、全国大会上位で活躍できる選手の育成をしていきたいと思います。

(委員長 吉田 靖)

岐阜県高体連陸上競技専門委員会

【平成30年度のスタートにあたって】

高体連の活動方針

1 挑戦し続ける、逞しい心を持った選手の育成。

2 感謝することを忘れない、謙虚な心を持った選手の育成。

この二つを大きな指導方針として、取り組んでいきたいと思います。

昨年末から今年3月末にかけての3回の強化合宿(中高合同合宿を含む)では、競技力の向上だけでなく競技者としての姿勢や心構えの指導を重視しました。大一番で力が發揮できる、精神的に強い選手の育成をねらいます。

全国高校総体への展望

本年度の東海高校総体は三重県開催でした。今年は延べ男子15種目・女子3種目で入賞し全国高校総体の出場権を獲得しました。(29年度:延べ男子15種目・女子9種目で入賞)全国高校総体の陸上競技が三重県開催ということもあり、三重県勢の躍進が特徴的な大会でした。

有力選手は、地元開催で大いに沸いたアジアジュニア陸上競技選手権大会の円盤投において3位入賞を果たした山下航生君(市立岐阜商業)です。山下君は昨年度の日本ユース選手権大会男子砲丸投で2連覇、円盤投でも優勝を果たしており、円盤投げの優勝候補筆頭、砲丸投においても優勝を期待できる状況です。

次に同じくアジアジュニア陸上競技選手権大会の男子砲丸投で5位入賞の稻福颯君(市立岐阜商業)があげられます。昨年の全国高校総体男子砲丸投げでは、2センチ差の2位と悔しい思いをしましたが、今年度は春から東海高校記録を連発し、優勝候補の筆頭です。市立岐阜商業の二人は優勝のみならず、日本高校記録の更新も視野に大舞台に臨みます。

また、昨年の大会で県勢初の優勝を成し遂げた男子4×100mRの岐阜聖徳学園は、東海地区予選を2位(40秒48)で危なげなく通過し、上位入賞が期待できる状況です。

その他に、昨年の日本ユース選手権大会男子110mHで7位の多和田旭君(大垣商業)は東海予選で2位ながら14秒27の好記録を出し、入賞の期待が高まっています。

男子八種競技では東海予選において山本麟太郎君(美濃加茂)が5555点の県高校記録で優勝し、全国総体での入賞・県高校記録の更新も大いに期待できます。

本年度、三重県伊勢市で行われる全国高校総体では、昨年の入賞数男子3・女子1・合計4の成績を上回ることを目指します。

(委員長 沖村 敏寛)



次号紹介

2019年4月下旬発行予定です

編集委員

木下 克己	原 清隆	山田 緑
河野 康彦	江崎 尚	渡邊 宗治
土屋 雅敏	坂谷 幸紀	